

## 第7回 大東市地域公共交通会議 議事概要

- . 日 時 平成30年3月29日(木)午後2時から午後4時まで
- . 場 所 大東市立市民会館 3階304会議室
- . 出席者 委員14人(委員6人欠席)および事務局6人
- . 議題等
  - 1. 開会
  - 2. 南部地域におけるワークショップ開催及びアンケート結果について
  - 3. 南部地域における地域公共交通のルート(案)について
  - 4. 閉会

### 1. 開会

#### 【会長】

本日の会議では、地域のワークショップやアンケート調査の結果などを参考として、事務局で検討を行った南部地域のコミュニティバスを中心とした地域公共交通の具体的なルート案についてご協議いただきたいと思っております。

### 2. 南部地域におけるワークショップ開催及びアンケート結果について

<事務局より、アンケート結果等についての資料説明>

#### 【委員】

アンケート調査について、調査票の世帯配布数1,800、世帯回答率32%であるが、調査のサンプル数が適切かどうか教えていただきたい。

#### 【会長】

サンプル数は統計的に十分であると考えますが、アンケートの全数調査をしなかった理由を、事務局より説明してください。

#### 【事務局】

調査方法につきましては、当初、各地区に対し、ワークショップ形式での意見交換を提案いたしました。時間も限られるため、アンケート調査もあわせて提案させていただきました。そのアンケート調査に関し、地区ごとに調整させていただきました結果、中垣内、御供田南地区は全戸配布、その他の地区については、地区役員様やそのご家族など、ご協力いただける範囲内で実施いたしましたので、全数調査にはなりません。

**【委員】**

住民の足の確保の観点から、今後は路線バスに支援するなどが必要ではないか。また、大東市だけの問題ではなく、周辺市も含めた都市圏で路線バスの利便性向上などの検討が必要であると考えるが、大東市としてはどう考えているのか。

**【事務局】**

市全体と周辺市を含めた交通の検討につきまして、議論する重要性は認識していますが、本会議では課題が大きい東部と南部地域から先に検討してきたという経過があるため、現状は南部地域の課題検討後に、地元意見を聞きながら、共同運行や路線拡大の可能性などについて周辺市と検討していきたいと考えています。

### 3. 南部地域における地域公共交通のルート（案）について

<事務局より、ルート案についての資料説明>

**【委員】**

現行コミバスの南新田・朋来コースは中型車両で運行されているが、利用者が少ないため小型車両にしてはどうかとの意見に対して、現在の利用状況では積み残しの問題が想定されるとの説明がありました。

今回検討している新たなルートで、資料の Case2 および Case3 の中垣内コースについては、ワゴン車で運行すると記載がありますが、積み残しの想定はされておられますか。

**【事務局】**

駅からの距離、バス乗車時間、現行コミバス利用率などの要素と今回実施したコミュニティバス乗降調査により、需要予測を行った結果、中垣内コースの泉町のバス停でピーク時に 16 名程度の利用者が見込まれることが分かりました。

泉町を経由する中垣内コースの車両は、Case2 の場合、ワゴン車 10 人乗りタイプであり、積み残しが出るのが想定されます。ただし、Case3 の場合は、現行通りの中型バスで運行するため、全て乗車いただけると考えています。

**【委員】**

アンケート調査やワークショップにおける中垣内地域の方の意見からは、多くの利用が見込まれると考えますが、10 人乗りワゴンタイプの車両で積み残しは発生しないでしょうか。

**【事務局】**

委員のおっしゃるとおり、多くの利用意向がございしますが、利用目的の中でも比較的多い買い物や通院目的であっても、利用頻度は毎日とはならないため、積み残しは毎日発生しないと考えますので、現段階では運行開始後の利用状況を見ながら、市全域の公共交通の見直し時点において再度判断したいと考えています。

**【委員】**

使用車両に関する意見として、中垣内地区のコース中には4 t規制がかかっている場所があるため、中型バスでの運行は厳しく、安全面などを考えるとワゴン車などの小型車での運行の方がふさわしいと思います。

**【委員】**

Case3-2の場合、中垣内コースは往復で33分、片道12分で住道駅まで行けると考えて良いでしょうか。

中垣内7丁目から住道駅までは、徒歩で20分、自転車で10分程度の地域である。バスの運行ダイヤを設定する際にはその時間との差別化も考慮していただきたい。

**【事務局】**

Case3-2の中垣内コースは周回するルートであり、単純に2等分できないため、駅まで最も時間を要する停留所位置は中垣内7丁目となります。そこから住道駅までは十数分～20分と想定しています。

ただ、ここで示している運行ダイヤ案は机上で計算した値であるため、具体的に運行ルートが決まった後には、実際の運行車両でテスト走行を行い、バス停の設定や信号の停車時間などを確認してダイヤを設定する予定です。

**【委員】**

現行コミバスの当初運行の折に、議会で議論し、賛成した経緯がある。当初は、主要な公共施設を巡回するバスであり、通勤利用は想定していなかった。Case3における赤色ルート(現行のコミュニティバスルート)およびバス停は、考え抜いて決定した案である。

以上の経緯を考慮すると、これまで中型バスが運行していたところをワゴン車に変更することは考えられない。需要が減少するというのであれば考慮する必要があるかと思うが、今後は更に高齢者が増加し、需要も高まると考えられるため、赤ルートはこのままとしてほしい。

**【委員】**

灰塚地域の意見がアンケート調査以外にないので、断定はできないが、朋来はワゴン車両で十分であると考えます。また、実際に運行する場合は、市民への利用促進が重要であり、例えば便数が少なくても、病院へ行く方はバスのダイヤにあわせて生活しているなどの事例も考えられるため、周知に努めてほしい。

**【事務局】**

朋来地域では、現在は1便しか運行していないが利用者数は10人強となっています。今後の運行にあたっては、委員のおっしゃるとおり、利用促進、啓発活動が必要と考えています。

**【委員】**

ワゴン車両は、どのような車両を使用し、どのような運行内容を想定しているのでしょうか。

**【事務局】**

ルート案、バス停位置などの運行内容や、車両の選択については、地域の意見をいただきながら、次以降の公共交通会議で検討して決定していきたいと考えています。

また、車両の件について補足しますと、近鉄バス株式会社からは、ワゴン車両に運賃箱を設置すると、2～3座席少なくなると聞いており、乗車ステップをつけるかどうかなども含めて、車両に関する具体的な事項は、今後の検討課題と考えています。

**【会長】**

詳細については今後検討していくということですが、大枠として新たなルートはCase3と決めても、特に異論はないでしょうか。それともCase3-1かCase3-2のどちらかに決める議論をした方が良いでしょうか。

**【委員】**

住民要望は、Case3-2の中垣内の住宅地内まで運行して頂きたいとの意見である。Case3-2に決めていただく場合は、地域内の路上駐車を無くすことを徹底したい。一方で、Case3-1で示されている中垣内東のバス停は非常に危険な箇所であるため設置は難しいと考えています。

**【事務局】**

Case3-2のルートの中垣内の住宅内まで入るかどうかの選択およびバス停位置については、地元と調整したうえで、次回の会議以降で提示させていただきたいと考えています。

**【会長】**

ここで、本日ご欠席の近鉄バス株式会社より意見書をいただいているので、内容を代読します。

<近鉄バス株式会社からの意見書内容>

- ・資料4「南部地域における地域公共交通のルート(案)」で示されているルート案につきましては、狭隘路における駐車車両等の問題がなければ特に意見はありません。
- ・現行のコミバスルートが延長になれば、運行時分も延びるため、現行より便数は減ることになります。また、現行では車両3台運転手3人で運行しており、拘束時間が運行管理上の上限となっていますので、延長により車両の出費だけでなく運行経費もアップします。
- ・ワゴン車タイプの運行では、乗務員による手渡しでの運賃収受が不可であるため、運賃箱の設置が必要となり、座席数が少なくなります。

**【委員】**

阪奈下り線の停留所の件で、住民に相談したところ、障害福祉施設があり、17時くらいに送迎の福祉車両が停車している現状があるため、これから検討されるバスの停車時間と重複しないように配慮いただきたい。

**【事務局】**

了解しました。相談・調整させていただきます。

**【委員】**

朋来コースについて、増便となれば、地域要望に対し喜ばしいと考えます。ただ、便数が少なくても、現状は近鉄バスの路線もあり、駅までの乗車時間も数分であるため、立って乗車しても大丈夫な方も多く、特に問題はないと認識しています。

また、地区の利用者からは1,000円券、2,000円券などのパス(定期)の導入について、要望がありましたので、この点も検討していただきたい。

現行のコミュニティバスは老人のためのバスとの思いがあり、PR不足であったと認識しています。増便を検討していただく以上は、自治会としても利用促進に協力したいと考えており、隣接している南灰塚地区も含めPRしていきたい。

**【委員】**

Case3-1、Case3-2について、緑のルート(中垣内コース)ではバスの起終点が北側と南側で異なっているため、利用者には分かりにくいのではないのでしょうか。

**【事務局】**

中垣内地区で実施したワークショップで、大東中央病院を目的地としたいとの意見があり、また、一方通行の規制などの関係で、原案を提示させていただいています。今後、安全の観点から、運輸支局や警察へ相談しながら決定したいと考えています。

**【委員】**

東部地域乗合タクシーのようなシステムを、南部でも導入することを考えてはどうでしょうか。

**【事務局】**

東部地域については、道路が大変急峻で狭隘であるという地域特性があり、また、需要が少なく、1便あたりの乗客が少ないため、時刻表とバス停を設定し、タクシー車両を使用したデマンド型乗合運行としています。なお、運行1回あたりの運行経費が2,600円で、運行しない場合は、経費はかかっておりません。

一方で、朋来地区については、十数人以上の需要があるため、タクシーでの運行は少し厳しいと考えており、市全域の検討時において、改めて他地域とあわせて検討したいと考えています。

**【会長】**

乗合タクシーについては、予約が必要で、本数が3便しかないという制約があります。一方でコミュニティバスは本数が多くて予約も必要ないという利点がありますが、細かい道路に入っていけないという制約があり、どちらが良いかとの議論になりますが、便数は重要であ

ると考えられます。

**【会長】**

今までの議論を踏まえ、事務局からの推奨案、Case3-1、Case3-2で進めるという方針が良いでしょうか。なお、詳細については、今後、地元と調整を行いながら検討していくこととなります。

**【全員】**

意義なし。

**【委員】**

新しいルート案について、いつ頃の運行開始を想定しているのでしょうか。

**【事務局】**

今後のスケジュールについてですが、まず地元へ報告し、バス停の位置の検討を行った後、運輸支局や警察等と調整し、次回は5月末くらいに本会議に地元と調整したルート案を提示させていただき、最終的には3月を目標として、運行を開始したいと考えています。

#### 4 . 閉会

**【事務局】**

本日の会議内容について、不明点、質問がございましたら、事務局まで問い合わせください。本日は、ご出席、ご協力を賜り、ありがとうございました。

以上